

(仮称) 屋代スマートインターチェンジ周辺地区の まちづくりについて



1 (仮称) 屋代スマートインターチェンジ周辺地区まちづくり方針の策定について

■ 方針策定の背景と目的

・更埴IC・姨捨スマートICに続く市内3か所目となる新たなインターチェンジ「(仮称)屋代スマートインターチェンジ(以下:屋代スマートIC)」は、令和5年9月の新規事業化決定以降、千曲市・NEXCO東日本の連携により事業が進められており、**今年度秋ごろからの工事着手を予定**しています。

・屋代スマートICのアクセス道路として、市では都市計画道路一重山線(市道一重山2号線)の整備に着手しており、現在は地盤を安定させるための大型土のう等を使ったプレロード工法(予め荷重をかける)を全線に亘り実施しています。

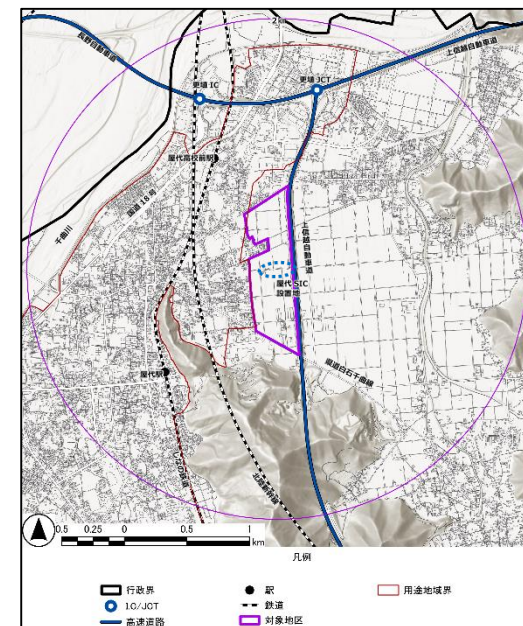
・こうした道路インフラの整備が進む当地区では、**開発ポテンシャルが向上**することから、**無秩序な市街化を抑制し、計画的な土地利用の誘導と道路交通網の整備を図り、市内全域が効果を楽しむ魅力的なまちづくり**とすることが求められています。

・そのため、現状の市の課題を基に、市民の皆さまや関係機関や外部有識者、地権者や開発事業者等のステークホルダーの方々からの意見を踏まえ、令和8年3月「**まちづくり方針**」を策定しました。

都市計画道路一重山線
(事業中)



屋代スマートIC周辺地区 (R8.4撮影)



屋代スマートIC周辺地区 箇所図

・土地利用方針および整備方針について

■ **土地利用方針** 目指すべき将来像に向け、今後各ゾーンのイメージに沿った土地利用に誘導する取り組みを進めます。

【商業ゾーンのイメージ】

- ・市内の新鮮な野菜・特産品、隣接県の新鮮な水産・畜産物等を販売する地域に根差したショッピングセンター
- ・地域の特産品や食材を利用した飲食店
- ・屋外交流空間（オープンスペース、イベント広場）



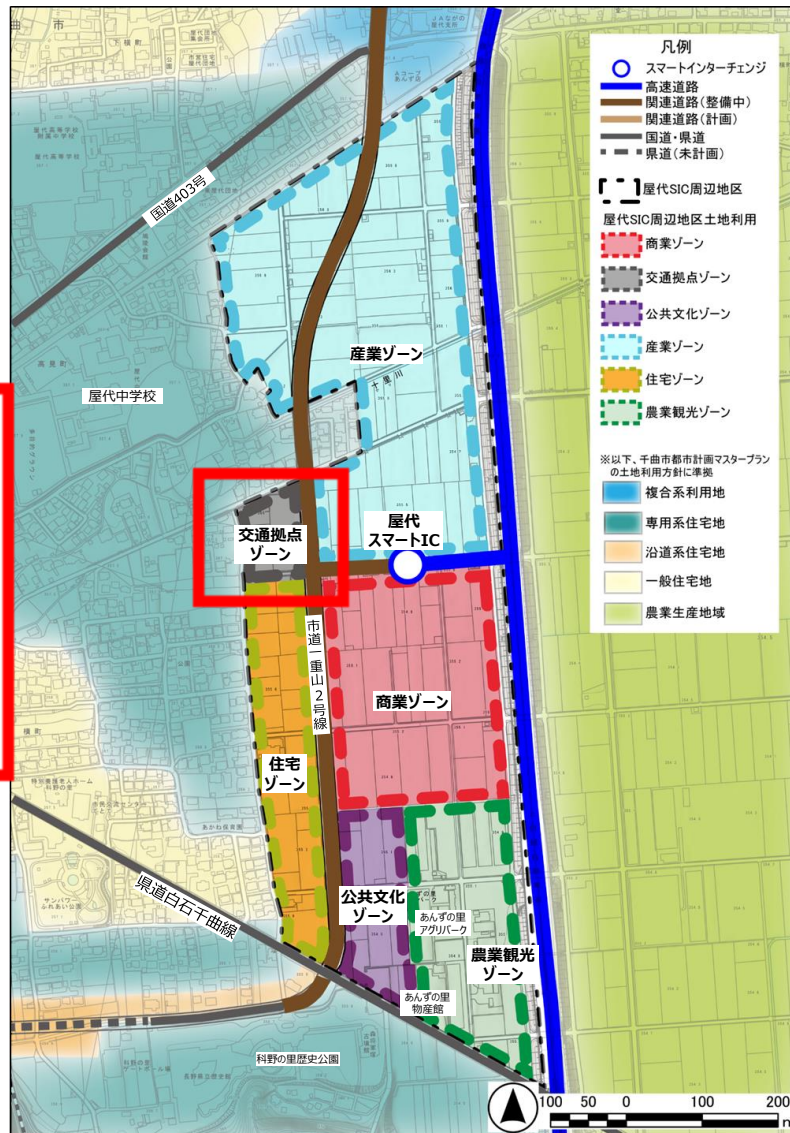
【交通拠点ゾーンのイメージ】

- ・高速バスの乗降・待合機能
- ・アクセス・乗り継ぎ機能（パーク&ライド駐車場、送迎者の停車スペース、路線バスなど公共交通との乗継、自転車などシェアサービス、周辺施設利用者の駐車など）



【住宅ゾーンのイメージ】

- ・開発エリアで働く人の職住近接ニーズに対応
- ・UIターン者の移住・定住者が住みたくなる住宅
- ・庭や菜園などゆとりがある敷地
- ・シェア菜園・広場、公園などを配置



※土地利用方針図より一部抜粋・編集

【産業ゾーンのイメージ】

- ・製造業の生産や物流施設など、地元の若者の定住やUターンを支える雇用の場
- ・施設見学や地域交流スペースなどの開放施設を備えた地域共生型の企業の立地



【公共文化ゾーンのイメージ】

- ・小中高生が勉強や会話で溜まれる居心地よいスペース
- ・全天候型・通年で利用でき、子育て世代の定番のお出かけスポットとなる屋内遊び場
- ・歴史体験ゾーン（森将軍塚古墳館・県立歴史館）とも学び・体験の面で連携



【農業観光ゾーンのイメージ】

- ・飲食や農業体験を家族で楽しむなど、地区内の回遊を誘導
- ・他ゾーンと連携して農業体験や農業学習等の機会を提供
- ・周辺地区と科野の里歴史公園をつなぐ動線



・土地利用方針および整備方針について

【参考】(仮称)屋代スマートインターチェンジと周辺まちづくり方針に基づく土地利用イメージ図



(仮称)屋代スマートインターチェンジ鳥瞰パース図より作成。本図はイメージを表すものであり、実際と異なる部分があります。

・土地利用方針および整備方針について

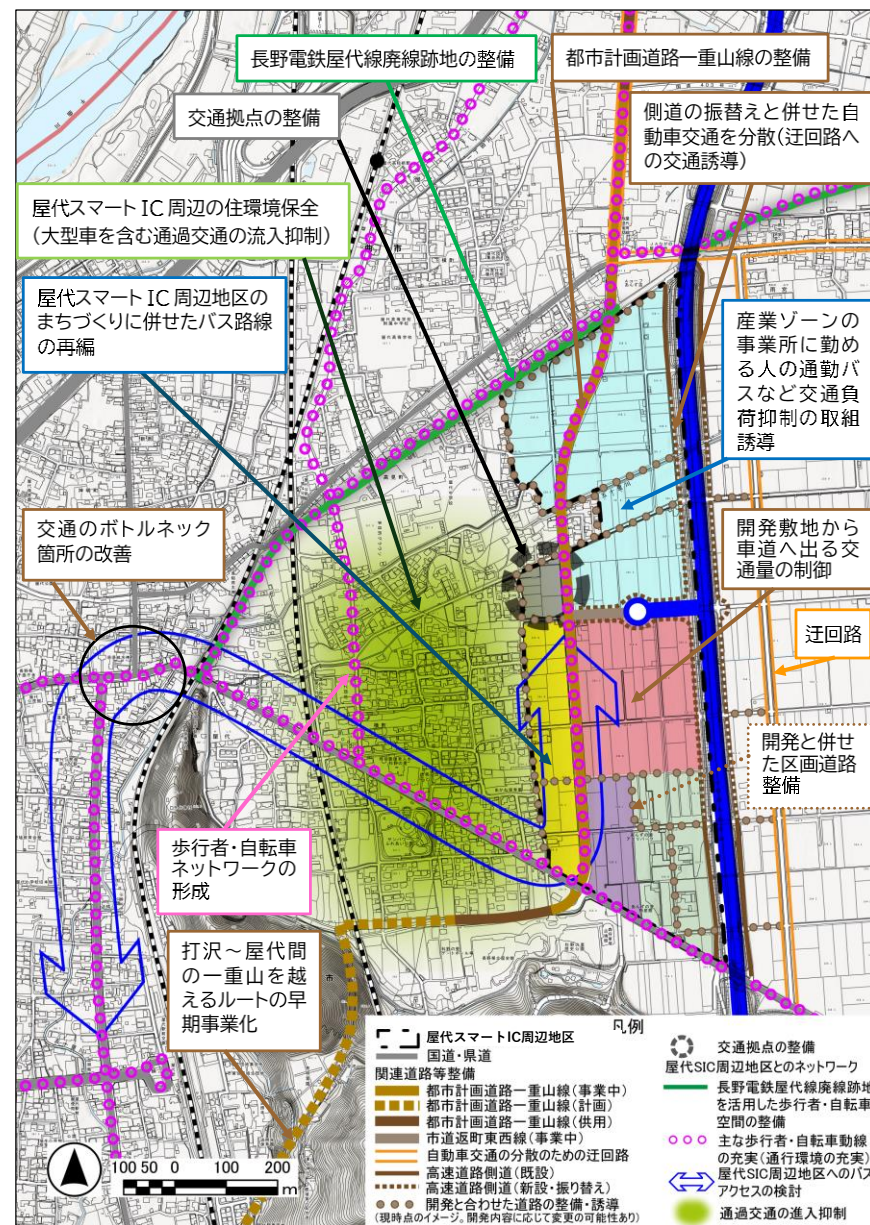
■ 交通対策の方針

屋代スマートIC周辺地区では、広域的な交通結節点としての利便性を最大限に活かしつつ、**周辺道路の整備や交通流の適正化、公共交通機関との連携強化や歩行者・自転車等の利用環境の充実**を通じて、多様な移動手段に対応するとともに、脱炭素など環境負荷の抑制にも配慮した交通対策を推進します。

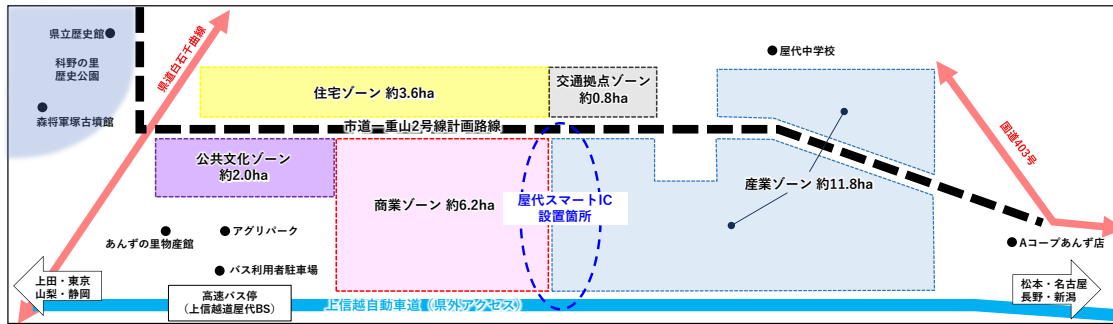
屋代スマートIC周辺地区のまちづくりに併せたバス路線の再編



長野電鉄屋代線廃線跡地での自転車・歩行者空間の整備



・事業の進捗状況と今後の予定について



■各ゾーンの進捗状況と今後の予定 (R8.6時点)

